



しにかわ 報 広

— 人口の動き —	
— 12月1日現在 —	
男	5,927 (-23)
女	6,099 (-1)
計	12,026 (-24)
世帯数	2,598 (0)
()内は前月との比較	

発行/川西町役場 編集/企画室 定価/1部5円 印刷/白南風社

仙田に雪上車を配置

冬になると、ちょっとオーバーな言い方をすれば、さながら“陸の孤島”化してしまう仙田地区。

その悩みを少しでも解消するため、雪上車の導入を計画し、県に要望しておりましたが、このほど配置が正式に決まり、さる5日に引き渡し事務を完了、6日には仙田入りが実現しました。

雪上車は、雪が積もった道路の圧雪をして道をつけ、急患の輸送、消防ポンプの急送などの便をはかります。もちろん、通学道路の確保にも役だつでしょう。ちなみに、昨冬、県下の雪上車の走行距離は多いところで一台が3,000キロを記録しているそうです。

写真が、仙田に常駐する雪上車です (5日写す)。



町政コーナー

収税作業が一段落して十一月ともなると、町営、部落営その他の公共事業の完了に伴う落成式や完成祝いなどがほとんど過日に行なわれて各地区で行なわれるのが毎年の例であった。ことは、この慣行を改善するため、すべての公共事業をひっくるめた合同落成式を十一月十日に千手小学校で挙行政した。対象事業は、道路工事や災害復旧工事その他町の事業が五十三件、土地改良区や部落関係の事業が二十数件で事業費の総額は八千万円を超える。これらの事業について個々に落成式を行っていたのではその経費と時間的損失もさることながら、日常の公務にもさしたるムダはきわめて大きい。この不合理を改めるための試みとして行なわれた合同落成式の意義は高く評価されるべきであるが同時に、今後その趣旨に反するような慣行が復活しないよう、

式の運営やPRにはいっせいの創意工夫が期待される。十月一日付で発足した総合開発計画審議会の第一回全体会議が十一月十五日に招集された。この日は、別冊所報のように正副会長の互選、部会の構成及び正副委員長互選のほか、根津町長の諮問に対する今後の審議の方針が検討された程度で、本格的審議は、十二月以降に予定されている各部会の招集を待って行なわれる。

なお、町総合開発計画の一部門となる仙田地区開発計画については、県及び県議会に対する陳情が採択されて、来年度から具申山村振興事業の指定を受けることが内定した。このため十一月十四日県企画部蒙雪地域振興課の長谷川課長補佐が現地視察に来町したほか、同日県庁で関係町村の指定申請事務打合せが行なわれた。これにより、とりあえず十二月十日までに振興構想の概要等の資料を添えて申請書を提出し、県の承認を得て三月上旬までに振興計画原案を提出する予定となっている。(M)

行事

- 十一月
 - 十日 米多収穫競争会表彰式(農業センターで)
 - 十一日 総合開発計画審議会の総会部会を役場でひらく。
 - 十二日 午後から役場で、国土調査委員会をひらく。
 - 十五日 郵便番号記載調週間が
- 十二月
 - 六日 消防団の出さめ式。
 - 八日 学校もいよいよ三学期です

総合開発計画審議会がスタート

委員 四十人 五つの部会を構成

町議会九月定例会で設置条例が成立し、その構成や資料作成のため、準備期間を置いていた川西町総合開発計画審議会は、さる十一月十五日、夜場で第一回の会議をひらき、いよいよスタートをきりました。会議は根津町長のあいさつ、担当の丸山企画室長による審議会条例と規則の説明があったのち、正副会長の互選、諮問の趣旨説明を経て、最後に、五つからなる部会の編成を行ない、予定していた全日程を消化いたしました。

会長には

和久井議長が

審議会は、委員四十人以内で組織することになっていますが、この定款いっばいの人数構成によりスタートし、その内訳は、町議会議員(全員、現在欠員三のため二十四人)、教育委員(二人)、農業委員(二人)、団体等の役員(農協から四人、商工会、消防団青年団、婦人会から各一人、計八人)、学識経験者(四人)。さらに、これを地域別に分けてみると千手十三人、上野七人、橋十人、仙田十人となります。

この四十人が、総合・産業・建設・文教・厚生、以上五つの部会に分かれ、それぞれの所管事項について審議をしてゆくことになりました。

部会別の委員氏名は別項のとおりです。
また、条例と規則の説明、質疑のあと、ただちに終わった、会長と副会長の選出については、選考委員をあげて選ぶのが適当だとして

町長指名による七人の選考委員に 井精一、副会長に清水儀七の両氏これを一任した結果、会長に和久が決定いたしました。



(初会議の様子)

部会の構成

◎委員長 ○副委員長

総合部会

平野圭二、馬場下輝、和久井精一、◎小林与作、齊木定太郎、数藤徳義、○高橋友義、高井正治、野沢秀保、以上九人。このほか、他の四部会から委員長が加わる

産業部会

◎中村金作、山家晋平、水窪達一、中村昌平、押木二吉、○上村常助、蔵品茂雄、清水京平、山田壽雄、以

建設部会

◎田中幸三郎、丸山恒正、小川清次、滋野一郎、高橋悠八郎、○小林猪作、羽鳥駿市、白井源次、以上八人。

文教部会

○小林中一、和口光興、齊喜良、登坂敦恒、清水儀七、丸山富郎、◎丸山宗太郎、以上七人。

厚生部会

◎市川富二、屋名安徳、○内山常治郎、丸山茂吉、梶居昌平、樋口辰治、田口トウ、以上七人。

明年九月末に 結論を

『愛雪山間地としての悪条件を克服して住民の福祉を増進し、所得水準の向上をはかるため、経済社会、文化等の総合的見地から、土地の総合開発利用、産業基盤の整備、および産業構造の近代化による産業振興、ならびに生活環境整備に関する川西町の総合開発計画を策定すること。』
以上のような趣旨の諮問を受け、審議会としては、十年後の昭和五十三年を目標にした基本構想をもとに、四十八年までの五か年の基本計画、さらに、四十六年まで三か年の実施計画を立てるため審議と調査活動を行ないます。そして策定の最終段階にあたる実施計画は明年九月末までに成案を止すことが確認されました。

なお、審議会の発足と同時に、広範囲にわたる事務処理のために田口助役を局長とする四十三人編成の同計画策定事務局も設置されました。

この事務局には、増田収入役と杉本教育長が幹事として参加しており、事務局の庶務は企画室が担当します。

議会の動き 11月

- 四日 高橋町長会議長の合同葬に議長出席。総文委員現地視察。
- 五日 土厚委員現地視察。
- 六日 柏崎港期成同盟会に議長出席。
- 七日 産経委員現地視察。
- 十一日 議員定数調査特別委員会
- 十四日 養老老人ホーム増築工事落成式に土厚委員長出席。
- 十八日 総文委員会
- 二十日 土厚委員会
- 二十二日 産経委員会
- 二十六日 議員定数調査特別委員会(通算三回目)。

桐生周平氏

(町議会議員)



大臼倉出身、大正二年三月三十日生まれ、五十五歳。さる十一月十日自宅で死亡。

これまで、旧仙田村消防団第七部長、仙田農協理事(一期)などを歴任。四十年八月初当選。土厚委員会に所属して大臼倉万村坂線の舗装実現に努力されたが、合同落成式当日、式に参列しないまま死去されました。



年末の郵便局からは、十五日から年賀状の受け付けが始まり、忙しさが倍加するので、贈答用の小包などは、十五日までに止してしまってください。毎歳荷造りを特に念入りにする必要です。

ところで、年賀状の特別取り扱い期間ですが、十五日から二十八日までとなっています。確実に元日配達にあわせるためには、せひ二十日までに届出いただきたい。これが郵便局からの呼びかけです。そうすると、十四、十五日の二、日曜日、年賀状を書くには絶好のチャンスということでしょうか。

賀状は、「町内」「県内」「県外」の三つに分けてはね、それぞれにはに付せんをつけて出しします。また、郵便番号を記入すること、お年玉つき年賀はがき以外のはがきを使うときは、あて先を貼く面の左側に「年賀」と未読するなども忘れてはなりません。

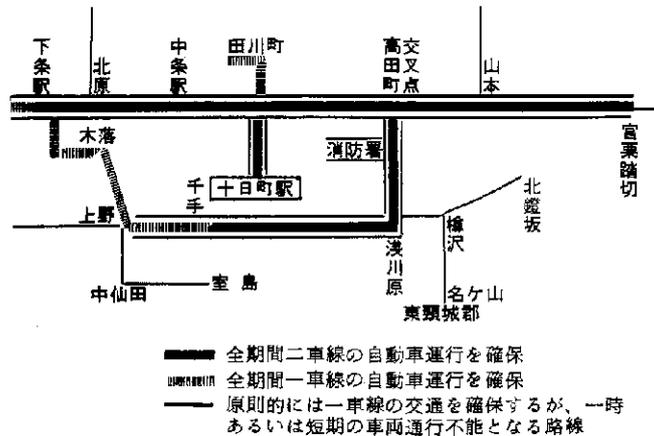
あて先の住所を省略しすぎたため、あるいは、誤言先がわからなかったりして、配達できない郵便物は、全国で、一日三十二万通もあるそうです。あて名は省略しないで正確に記入し、年賀状のま

い手をなくしてください。

まず足を確保／雪の対策

沿道のみなさんをお願い

<主要道路の除雪計画図>



■ 全期間二車線の自動車運行を確保
 ■ 全期間一車線の自動車運行を確保
 — 原則的には一車線の交通を確保するが、一時あるいは短期の車両通行不能となる路線

北西の季節風が強くなりました。長期予報によると、半ばごろの、大寒から張り出した気圧の谷が通ったあとに、強い季節風が吹いて雪が降りやすくなり、一月には、高気圧が発達、数日にわたって寒気が吹き出し、平野部でも、局地的に雪は多いといえます。暗い、まったりとした冬、雪という厚い壁、その壁がどうすることもできない存在としか考えられなかったころもありました。しかし、いまでは除雪機械の発達によって雪にとじこめられた生活を、ただ宿命としてあきらめる時代ではなくなりました。ご存じのように、主要道路については件々無雪化が進められるようになり、機械力をフルに活用して、冬でも車の交通は可能ということが当然のようになって、可はごため、できるだけの努力をしております。住民のみならず、本格的な冬をひかえて無雪道路が確保できるように、ごこのご協力をお願いします。

道路除雪の要望は 土木課へ

主要道路の除雪計画については左上の図のとおりですが、力を合わせて雪の重荷をはねとばし、明るい冬を実現するため、沿道のみなさんには、特に次の点を依頼いたします。

▼ 玄関への入口が除雪作業でふさがれる場合があります。ご迷惑でも、各家庭で手直しをしてください。小路の入口なども同様です。

▼ 屋根の雪おろし後は積み重ね整理をして、道路中央の車両路線を保つ確保してください。

▼ 除雪作業中は危険ですから機械に近よらないこと、特に子どもたちには注意してください。

▼ 夜間除雪中、対象路線への駐車、自動車放置をしないでください。

▼ 消火栓は、いつでもはっきりとわかるように目じるしを忘れないでください。

このほかでも、お願いしたいことはたくさんあります。有放や巨壁による除雪の情報はよくキャッチしていただき、もし、みなさんからご意見や要望があれば、土木課へ連絡してください。

冬の防災

小千谷地震？

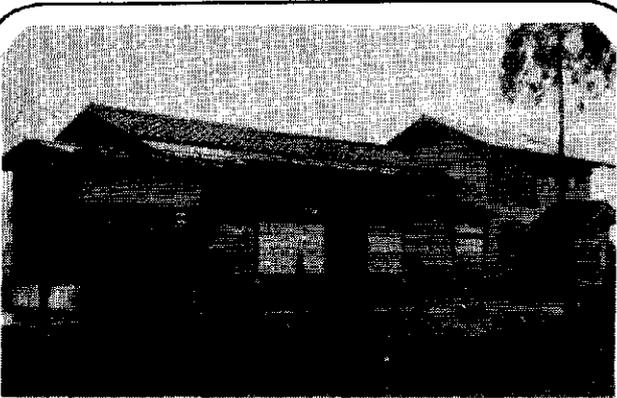
ところで、雪の対策もさることながら、「数年内に、新潟県小千谷市地方に中震程度の地震があること。」が予想されています。

数年間というところ、はく然としていりますが、地震研究の面ではかなりところでなくはつきりした予想とされていて、わたくしたりにとって、ふたんの防災の心がまえがたいせつになってきました。とくに、いろいろな活動を制限してしまふ、雪というやっかいなしるもの時期に、もし地震がきたらと考えると、恐ろしい気がいたします。

善意の告知板

必要以上に相棒を使うこともないでしようが、備えあれば憂いなしといえます。それぞれの家庭環境に応じた対策を考え、いざという時に備えてください。

※さうきんを寄付
橋老友クラブ(会長は丸山寛治さん)に所属している、原庄と根深のお年寄りのみなさん三十四人が、「目ごるお世話になっておるお札に」と、自分たで作ったさうきん六十枚を、このほど役場に寄付してくださいました。



広報フレッチ

へき地保育所。以前のくせがぬけないで、つい、一季節保育所」といってしまうのですが、季節保育所ならぬへき地保育所は、現在、五か所開設されています。南原、上野、北田、中仙田、木落の五か所、合計二百九十人の児童に対して、保育さんは十六人。町立であること、年間を通じて開設するものであることとのふたつを要件に、人件費の異費補助を受けています。もっとも、年間開設といってもこのような豪雪地のこと、冬期は児童が通うこともできず、結局、開設期間は、四月

へき地保育所

(中仙田は五月)から十二月までということになります。専用の施設といえるのは南原(写真)と北田の二か所。いずれも学校に隣接して、三遷の敷地なら、これ以上の場所はありません。木落も、冬へき地保育所に配置されることになり、もっか、役場待機中というのも、心算し記題です。

四期工事関係で、四人の児童が北田に登録されていて目をひきますが、北田といえは原田の池竹俊壽さんのことがうかんできます。

池竹さんは、左の手と足が不自由であるにもかかわらず、四十年以来、北田に通う児童が原田の停留所までバスに乗り降りする手助けをしており、三箇の季節保育所時代、児童が道路を横断するのを先導していたころを通算すれば、七年間も児童のめんどうをみています。

